

# ひろば大代

NO.301

大代公民館

H16.8.23

## 都市と故郷を結ぶ交流会

高山会会長 木村幸司

平素より、高山会事業に際しまして、多大なるご理解とご協力をいただきましたことお礼申し上げます。不在となっております。七月の高山会理事会におきましてご推薦をいただき、就任いたしました木村でございます。例年、高山会の会長は公民館長が兼務しておりましたが、一緒にたになっておりました、公民館事業と高山会事業とを明確にする意味も込めて、公民館・高山会それぞれに長を置くこととし、この度「高山会」の会長を引き受けさせていただきます。残念ながら公民館長は不在のままでございます。本題に入ります前にご報告をさせていただきます。

さて、今年度の「都市とふるさとを結ぶ交流会」でございます。開催にご尽力いただきました皆様方に、まずは衷心よりお礼を申し上げます。また、各方面より多大なるご寄付をいただきましたこと、感謝の念に堪えません。ありがとうございました。

今年度の「都市とふるさとを結ぶ交流会」は、八月十四日夕方から「神楽」と「盆踊り」をメインイベントとして開催いたしました。前日の夕方、当日の午前中と「まさか、雨はふらねえだろう」と思わせるような晴天の中、意



気揚々と開催準備に勤しんでおりました。ところが、開催一時間前から、ポツリポツリとまさかの雨・・・開催場所の変更も考慮いたしました。が、「必ず止む！」と言う、皆さんの熱意にほだされて、計画通りに開催。雨雲のわずかな切れ目を縫って、何とか最後までやり通すことができました。すべての行事が終了し、後片付けもほどほどに、ほっと胸をなでおろしたのも束の間、突然の豪雨と雷、そして停電。

「開会行事」に始まり「盆踊り」が終了するまで、豪雨にたたられることなく、無事開催ができましたこと、皆様方の平素の行いの良さのお陰と感謝した次第です。雨のことが気になり、全体的に中途半端なイベントになってしまいました。少しは田舎のお盆の行事を堪能いただけただけでしょうか？

来年度、「都市とふるさとを結ぶ交流会」は第二十回の記念大会を迎えます。一年かけて、何をやらかしてやるか、じっくりと案を煮詰めたと思っております。皆様方のご希望や、ご提案がございましたら是非ともお聞かせください。

来年の八月、「都市とふるさとを結ぶ交流会」の会場で、多くの皆様とお会いできますことを楽しみにしております。色々なことにつけて、すべての皆さんで知恵を出し合い、力を出し合っ、活力と勢いのある我が故郷にしたいと思っております。

輝く故郷を夢見て、ここらで筆を置かせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

## 口説きデジャヴーをうて

川上 鉦 康範

私が大代町の一年の行事の中で最も楽しみにしているのが夏に行われる交流会である。

その中の盆踊りで、今年から口説きをさせてもらえる事になり、先日八月十四日にデビューさせて頂いた。普段からカラオケ好きの私なので、この話を有難く受け入れた。

当日、日頃の私の行いが良かったせいか、何とか天候にも味方してもらった。神楽の公演も盛大に終わり、片付

けそつちのけで甚兵衛に着替えて会場へ向かった。休憩中のアルコールもほどよく入ったところで私の出番が来た。私の中では「とにかくやるしかない」といった思いがあり、思い切つて声を出した。中学時代に田植囃子で采振りをしていた経験を思い出し、無我夢中で歌った。

歌本があつたにもかかわらず、カミまくりの口説きではあつたが、時間はあつという間に過ぎ、次へバトンタッチ出来た。踊り手の皆様の掛け声もあつて、楽しく出来た。正直、脱力感は相当なものだったが、次は来年の盆まどと考えると少々淋しいのも事実である。だが、来年はさらに一段レベルアップしていきたいと考えている。

次回は二十回記念という事で、私も張り切つていきたいと思う。

## アテネ五輪と

### ひろば大代



東京石見高山会 松野 広

第二十八回夏季オリンピック・アテ

ネ大会は十三日夜五輪スタジアムで開幕した。近代五種で始まったこの大会、一〇八年ぶりに里帰りしてみれば二十八競技・三〇一種目に成長している。

そうだ「ひろば大代」も三〇一号に大成。先の七月号を読むにつけ、草創期はガリ版刷りでスタート。今やパソコンによる作成時代。この間連綿として町の動きや市の情報を細大もろさず伝播、本当に有難いことです。

私自身「ひろば大代」を毎号読むにつけ、記事中のお名前とお顔を浮かべながら、ふる里のあの方も頑張つておられるんだと、どれだけ励まされてきたことか。次の五輪開催は北京です。大代の皆さん負けないで下さい。

ところで話は二年前、東京石見高山会では元大代中学校教諭山内典夫先生をお迎えしました。その折、私と山口義和さん（上市）、小野賢郎さん（本郷）の三人は翌日先生に東京見物をしてもらうため四人でホテルに泊まりました。その時私は今がチャンスとばかり先生に頼み事をしました。

「山内先生、私は中学時代運動会で一度も一、二、三等に入賞したことがな

く、その旗の所に並んだことがないのです。そこでお願いです。実は私は平成二年四月、ギリシヤを旅したときパルテノン神殿の帰り道アテネの五輪競技場に立ち寄り、一周四百米のコースを革靴をはいて自己最高タイム九十二秒で走ったのです。その時の写真がこれです。

オリンピックク競技場を走った男が中学時代いつも等外で鉛筆一本、ノート一冊賞品を受けていないのです。だから通信簿はいつも体育2でした。

先生、今からでも遅くはありません、私にせめて3を付けて下さい。

先生は広くなった額を両手でかさねながら、「よし分かった、体育を5に直そう。その代わりわしを当時二十五歳の青年教師に戻してくれ！」。

そばから義和さんが「あした朝四時起きして築地の中央市場、その後が多摩御陵参拝でしょ、中学時代のことは



大代に戻って決着してくださいよ」。賢郎さんは酔眼もうろうとして最後の一杯、焼酎のお湯割を作っていた。「ふる里とあなたを結ぶひろば大代」祝三〇一号 大代町の歴史を満載してさあ、出発進行！

### あすなる句会の歩み

椿 柿丸寿枝



「ひろば大代」三〇一号。四〇〇号に向けての第一歩。この記念すべき三〇一号にあすなる句会を取り上げて頂きこの上ない光栄なことと嬉しく思います。この会は昭和四十一年八月婦人会の学習の一端として、当時の会長尾崎三枝子様の御世話により句会名も「あすなる」と命名され今日に至って居ります。地元はこの道に造詣の深い荒本暎秋先生がおられご指導頂くことができました。

四十三年には、第一句集の発刊、又昭和四十九年松井立浪先生主幹の俳誌「石見」が創刊され暎秋先生始め全会員が入会。五十一年十周年記念句集、

平成九年三十周年記念句集。そして十三年には三十五周年を記念して、三百五十句を自選し「自史的俳句集」として、始めて個々の句集を発刊。出来上がった自分の句集を手にした時には感動で胸が一杯になりました。幸いにも会員の原田萬里先生が発刊に至るまでのすべての行程を一手に引き受け手作りの句集を仕上げてくださいました。あらゆることが私達に幸いして記念句集を次々と刊行することが出来たのです。

あすなる句会三十八年の歩みを簡単にまとめてみました。私にとつての俳句は、三十八年間作っても作っても道は程遠く終点がありません。しかし何でも話し合える素晴らしい仲間、美しい郷土の自然の中で一句一句自分なりの歴史を刻んでいくことが出来たら仕合わせと思っております。

二年後の四十周年を目指して会員一同研鑽を積みその日を迎えたいものをお願いいたします。

私達の拙い句を「ひろば大代」に掲載して頂き皆様にご覧頂けますこと、深く感謝いたしますとともに何卒今後共御支援の程お願い申し上げます。

## 大代町産のダチョウの卵

### ブルーベリーも出品



大代町元気な町づくり推進協議会

会長 横手新治郎

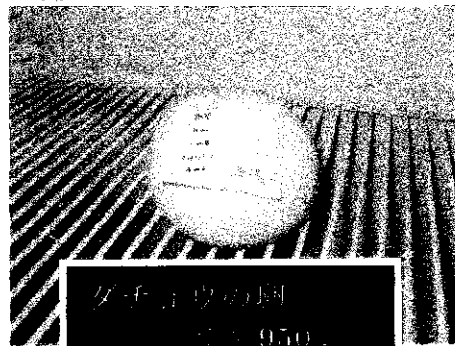
活気のある、元気な町になろうと、島根県・大田市の助成を受けた、高山の里直売所が7月11日オープンした。丁度、この日は参議院選挙の日であり、人出も多いし、野菜も出始める頃ということで設定した日であり、たくさんのお客で賑わった。

町民の方や、農機具の展示会に町外から来られた方、前から聞きつけて偵察に来られたであろう近隣の直売所の生産者の方など、大代では文化祭や敬老会・運動会などに次ぐ人出であったと思う。たくさん余ったらどうしよう。最初から持ち帰りが多いと、元気がなくなるのではとの心配も吹き飛び、昼過ぎには売り切れとなり、さいさきの良いスタートとなった。野菜34種類、加工品7種類の310点の出品があり、来

## まずは元気な町にしようという意識を持つことから

店者は約100人、出品者20名、売上5万円という成績であった。2回目は、品数も来店者も減り、残品も多くなり心配される事態であった。

3回目は、丁度小学校の例年の行事「大代っ子キャンプ」最終日。帰りの父兄や児童が立ち寄り、賑わいを取り戻し、売れ残りも少なく、出品者と購入者のバランスも取れてきた。大代町産ダチョウの卵が2500円で買われたが、どんな料理をして食べて頂いただろうか。是非聞いて見たい。



27日には、高山の里推進委員会を開催し、3回の状況の報告と反省、そして今後の取組みについて協議をし、4回目に望んだ。4回目、めずらしい商品が登

場した。飼育籠に入った鈴虫が2個出品され、子どもたちの目を引いた。おねだりが成功し引き取られたが、もうすぐ気持ちの良い声で鳴きはじめることだろう。地物のスイカが出てきたが、味はどうだったろうか。買って頂いた方の感想が聞いてみたい。それも交流であり、これからの野菜づくりに欠かせない。

5回目は、大代産ブルーベリーが出荷された。将来、大田市の特産になる果物だけに関心の高い商品である。大代の特産づくりを一役担って欲しいものだ。次回は、秋野菜も出来始める22日に再開である。

直売所と同時にオープンした「そば道場」の繁盛との相乗効果により、来客が多くなることと、安全・安心・新鮮な野菜、知恵を絞った加工品などの品数、出品者が、バランス良く増加していくことが今後の課題である。作家の五木寛之さんは、元気ということについて、最近出版された「元気」という本の中に次のように書かれている。「元」とは、「おおもと」という意味である。根元の、とか根本の、原初の、

といった語感だろう。「元」には第一番目に重要なものという意味も含まれているはずだ。「氣」は本来「氣」と書く。「気」は天のエネルギーをあらわし、「米」は大地がはぐくんだエネルギーを示していると考えたい。「元氣」とは、単に人の活気ある姿、生き生きとした動作などを言うだけの言葉ではない。天地万物を生み出し、それを生かしているエネルギーの根源が「元氣」というものなのだ。人間は大きな「元氣」の一部をせおって生まれてきたのだ。「元氣」は私たち万物の創造の母であり、命のふるさとの海なのである、と。

今後この町づくり事業を推進していくために、今、一番必要なことは、「元氣になろう」「元氣な町にしよう」という「意識」を、町民一人一人が持つて頂くことが大切だと思う。高山の里推進委員、生産者が毎回多数出席され、お世話いただいていることでも、元氣を出そうという意識の高まりの一部が感じられる。

この直売所が元氣を生み出す施設となるよう、町民のみなさんの知恵と汗

を結集して、「元氣」という字の意味する大代の町づくりに向かって、前向きに進んでいきましょう。

### 大代町敬老会のお知らせ

大代地区社協



大代町では9月19日(日)に午前10時30分から大代小学校体育館にて75歳以上189名の方々を対象に敬老会を開催いたします。

当日は幼稚園・小学生・中学生・有志によります歌や踊り・田植囃子などが披露されます。是非お出かけ下さい。町民の皆さん、ご協力のほどよろしくお願い致します。

計	女	男	
107	71	36	75歳 79歳
71	46	25	80歳 代
10	6	4	90歳 代
1	1	0	100歳 以上
189	124	65	合計

\*\*\*\*\*  
\* 9月行事予定 \*  
\*\*\*\*\*

- ▼ 5日(日) 福祉弁当
- ▼ 12日(日) 施設訪問
- ▼ 14日(火) さくらんぼ教室
- ▼ 16日(木) 子宮ガン・乳がん検診
- ▼ 19日(日) 大代町敬老会
- ▼ 21日(火) 大腸ガン検診
- ▼ 23日(木) 連合自治会
- ▼ 26日(日) 町民運動会

### || お知らせ ||

○大代公民館より  
ご寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます。

松野 広様 中本 弘様

東野美月子様

○大代高山会より  
都市交流会においてご寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます。

東京石見高山会様 関西高山会様

楠 義見様 田中憲経様

田中公道様 松本健一様

今田 潔様 宇井好恵様